



こどもクリニックニュース

NO. 127 平成22年7月1日発行
ともながこどもクリニック

熱中症に注意！

暑い日差し、じっとしていても汗ばんでくるジメジメは熱中症になりやすい条件です。炎天下に駐車している車の中は蒸し風呂のようです。こんな場所に置かれた赤ちゃんは、またたくうちに熱中症になってしまいます。

院長の予定 (2010年8月まで)

7月	1日	(木)	二種混合	水深小
	20日	(火)	ポリオ	保健センター
	28日	(水)	9ヶ月健診	保健センター
8月	11日	(水)	2才健診	保健センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。なお水曜日は一日休診ですので診療には影響ありません。

9月までの休診予定

8月18日(水)～25日(水) (夏季休診)
9月11日(土) (職員旅行)

水曜日は一日休診ですが、一部の祝日の午前中に診療しています。10月までの祝日診療予定は下記のとおりです。

7月 19日 (月) 海の日
9月 20日 (月) 敬老の日
23日 (木) 秋分の日
10月 11日 (月) 体育の日

診療時間は9:00～12:00です。

11月以降についても計画していますが、その時期は例年、須賀市の「冬季小児科診療」が実施されています。おそらく今年も実施されるものと思われますので、その日程との兼ね合いで、当院の祝日診療を決定します。

「ともながこどもクリニック・診療カレンダー」

半年分の診療の予定一覧をカレンダーにして受付窓口および玄関下駄箱の上に置いてあります。自由にお持ち帰りください。ただいま7月から12月までのカレンダーを提供しています。

感染症の情報

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)の流行は衰える気配がありません。保育園や幼稚園児、小学生を中心に患者さんが新たに見つかります。中学生の患者さんもたまに見受けられます。

おたふくかぜの潜伏期間(うつされてから症状が出るまでの期間)は2～3週間程度と長いため、流行が長引くことが多いのですが、今回のこの地域での流行も半年以上続いています。夏休みに入るまではまだまだ油断できません。まだかかったことのない方は、ワクチン接種をおすすめします。

一部の小学校を中心に伝染性紅斑(リンゴ病)が流行しています。頬や手足に赤い発疹が出るのが特徴です。詳細は裏面を参照ください。

胃腸炎や水痘の患者さんの数は少なくなってきましたが、それでもときどき見受けられます。一方で、溶連菌感染症や手足口病、ヘルパンギーナが増加してきています。今後の注意が必要です。

※手足口病とヘルパンギーナは、どちらも口内炎ができます。この二つの病気は同じ仲間のウイルスが原因であり、いとこのような関係です。



伝染性紅斑（りんご病）とは

<原因> ウィルスが原因で、人から人へうつる（感染する）病気です。症状が出るまでの期間（潜伏期間）は2～3週間ほどですが、皮膚の症状が出たときは、すでにうつす時期をすぎています。皮膚症状の出る前、7日～10日くらいが感染力があると言われています。ワクチンはなく、流行を防ぐ方法はありません。

<症状> ほっぺがりんごのように赤くなるので、りんご病と呼ばれています。太ももや腕に赤い斑点やまだら模様ができることが多いです。時に体にも同じような発疹が出ることもあります。赤くなった皮膚が少し痒くなることがありますが、軽いです。大人がかかると、微熱が出たり腰や膝が痛むことがありますが、子供では熱はほとんどでません。



<経過> 治療方法はなく、自然に治るのを待ちます。かゆみが強いつきはかゆみ止め、微熱があつてつらいときは熱さましを使います。

<隔離の必要性> 人から人にうつる（感染する）病気ですが、診断がついた時にはすでにうつす時期をすぎているので、本人が元気なら学校や幼稚園に行ってもかまいません。

<家庭での注意> 運動して体が熱くなったり、日光に長くあたっていたり、お風呂で長湯した時などは一時的に赤みが強くなります。1ヶ月くらい発疹が出たり消えたりをくり返すこともあります。いずれにしても本人が元気なら治療は不要です。

<血液疾患をお持ちの方と妊婦さん> もともと血液の病気のある方がこのウィルスに感染すると、急激な貧血が現れることがあるので注意が必要です。また、妊婦さんがこのウィルスに感染すると、お腹の赤ちゃんに貧血が起こることがあります。次回の検診のときに、産科の先生に相談してみてください。

ヒブ（Hib）ワクチンの情報

ワクチンの販売会社から新しい情報が入りました。

7月からは、ワクチンの供給量がこれまでの2倍程度となる見込みとのことです。今までに予約を済まされている方は、遅くとも9月末くらいまでには接種を開始できるらしいです。今後申し込まれる方の接種時期についてはまだ安心できませんが、少なくとも「何ヵ月も待つ」ことはなくなりそうです。

ヒブ（Hib＝インフルエンザ菌b型）は、乳幼児の細菌性髄膜炎の原因となる菌の中で最も多いものです。ワクチンが発売されてから2年近くが過ぎました。残念ながら、今はまだ任意接種（有料）でしか接種できません。できればすべての赤ちゃんに接種したいワクチンです。

小児用・肺炎球菌ワクチンあります

上記のヒブワクチンと並んで、全ての赤ちゃんに接種したいワクチンですが、こちらは十分あります。ただし任意接種（有料）です。先進国では、この二つのワクチンは公費接種となっているところが多いのですが、日本では「やっと接種できるようになった」段階です。「子ども手当」の一部分を、ワクチン接種の補助に使ってほしいと感じます。

保険証は毎回確認しています。

新・加須市では4月1日から、中学3年生までのお子様は医療機関を受診された際の窓口一部負担金の支払いは、一切不要になりました。ただし、そのための事務手続きに間違いや混乱が起らないよう「健康保険証」と「子育て支援医療費受給資格証」の両方を、受診の都度毎回提示していただいております。

どうか皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

子どもクリニックニュースの無料郵送サービスをしています！

郵送をご希望の方は、受付けでお申し込み下さい

携帯用ホームページ



ともなが子どもクリニック

加須市下高柳 1633-1

TEL0480-66-4150